

2019 年度 (平成 31 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番 25	福山市立 大津野小 学校
最終更新日		2020年(令和2年)2月10日	

I 福山市
ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感性
<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する 情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力が弱い。 自尊感情は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒 <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びに向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年3回アンケート実施) ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方を進める。

III 自校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感性
見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる		めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
学校教育目標 大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力			3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
現状 〈児童生徒〉 ○学級会議や全校集会、いろいろな表彰等を通して、学級力や自尊感情が高まり、考えて動く児童が増えてきた。 △基礎学力・活用力が低く、回りの状況を見て自分で判断して、行動できる力はまだ弱い。 △体力面が弱い。 〈授業〉 ○教科領域等の関連を図り、児童の疑問ややってみたいゴールを大切に単元づくりを通して、児童の学習に対する意欲が高まってきた。 △教師主導の授業も多く、児童一人一人の主体的な学びの保障が十分できていない。学級差が大きい。			5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠に見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
		教科等	国語科・特別活動				
		研究 主題・内容等	関わり合い、認め合い、主体的に学び続ける授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～				
		めざす授業の姿	自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 <ul style="list-style-type: none"> 根拠をもとに自分の考えをもつ授業 児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業 				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成		見直し	国語科・算数科における基礎学力を高める【課】 【思】	教科・領域をつないだ単元づくりをする。	国語科の単元テストの「読む・言語」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】	□テストは12学級中11学級が達成し、91%。 (60%未満の学校平均は4%) □単元づくりは17学級中14学級が達成し、82%。	3	3	・教科書教材で身に付けた読みのスキルを、他教材で活用させる。 ・各学級が、1学期に1単元、主体的な学びを仕組む取組シートを作成する。	□テストは12学級中12学級が達成し、100%。 (60%未満の学校平均は4%) □単元づくりは17学級中17学級が達成し、100%。	4	4	5	・主体的に学べるように、児童が選択、決定する機会を設定する。 ・必然性のある協働的な学びの場を仕組む。
					児童の課題を分析し、次への改善策を図る。	算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%、中学年9%、高学年12%未満にする。【単元テスト】	□テストは12学級中11学級が達成し、91%。 (60%未満の学校平均は4%)	3	3	・授業や家庭学習で、直しを徹底する。 ・カリキュラム・マップの見直しを毎月行い、学年間で児童のつまずきを分析し、手立てを考える。	□テストは12学級中11学級が達成し、91%。 (60%未満の学校平均は7%)	4	3	4	・60%未満の児童一人一人に合った手立てを考える。
1	主体性・積極性の育成	★	見直し	自ら課題を発見し、課題解決に向けて努力する児童を育てる【課】【主】	月1回OPT(大津野プロジェクトタイム)を実施し、つきたい力を掲示する。全校集会及び異学年での集会を児童の学びに応じて設定する。	学級力をリーダーチャートにおける「目標達成力」を85%以上ににする。【毎月のリーダーチャート】	□17学級中17学級達成し、100%。(学校平均は92%) □OPTは17学級中15学級が達成し、88%。	4	4	・児童会を中心に、学校全体の課題を改善するための全校集会やい学年集會を計画・立案する。	□17学級中16学級達成し、94%。(学校平均は94%) □OPTは17学級中17学級が達成し、100%。	4	3	4	・「課題分析→目標設定→取組→振り返り」のサイクルを定着させ、児童の気づく力を養う。
1	たくましい体の育成		見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について学期ごとの重点項目を設定し、体育授業の改善に取り組む。	新体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体力テスト】	□96種目中66種目達成し、種目率は69%で、達成率は106%。 □重点項目の取組は、17学級中15学級達成し、88.2%。	4	4	・大休憩体力づくりで走力を高めたり、ロング昼休憩で外遊びの充実を図ったりする。	□96種目中71種目達成し、種目率は74%で、達成率は114%。 □重点項目の取組は、17学級中17学級達成し、100%。	4	4	4	・カリキュラム・マップに各学年の課題を明記する。 ・体育の授業で、課題がある種目の強化月間を設ける。

2	教職員の元気と授業力向上	★	見直し	児童が自ら考え、学ぶ授業をつくる【課】【主】	1時間や単元の終わりに振り返りの時間を設定し、児童の学びを見取る。	友達と話し合う活動を通して、「自分の考えを広げたり、深めたりすることができる」と肯定的評価する児童を80%にする。【児童アンケート】	□17学級中16学級が達成し、94%。(学校平均は90%。) □振り返りとその見取りは、17学級中10学級達成し、58.8%。	3	3	・各学級、フリートークを週2回以上行い、考えの広がりや深まりを自覚させる。	□17学級中13学級が達成し、76%。(学校平均は88%。) □振り返りとその見取りは、17学級中17学級達成し、100%。	4	3	4	・ペア対話、グループ対話、フリートークの目的を児童と共有し、児童とともに効果的な対話の仕方を決定する。
1			新規	仕事のスピード化・効率化を意識した職務を行う【課】【主】	週・月ごとの計画を早めに立て、見直しをもって職務遂行する。	昨年度より平均10分間退校時刻を早める。	□平均約11分退校時刻を早めることができ、達成率は110%。	4	3	・退校時刻を提示することや勤務時間外在校時間を自己管理することで仕事の能率を高めていく。	□10月から1月まで平均約13分退校時刻を早めることができた。達成率は130%。	4	4	5	・退校時刻を早めることはできたので継続できるようにする。 ・行事の精選等を行うことで、業務内容の軽減を図っていく。
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		見直し	地域に愛着をもち、地域貢献する児童を育てる【共】	年2回以上地域の人とふれあう授業をつくる。	「大津野が好き。」と言える児童を85%以上にする。【児童アンケート】	□17学級中16学級達成し94%。(学校平均は94%) □地域の人とふれあう授業は12回中8回行い、66%達成。	3	3	・カリキュラム・マップの見直しを毎月行い、ふるさと学習の進捗状況を確認し、さらに充実させる。	□17学級中16学級達成し94%。(学校平均は94%) □地域の人とふれあう授業は12回中12回行い、100%達成。	4	4	4	・各学年でカリキュラム・マップを見直す場を設定し、ふるさと学習や地域の方との交流を効果的に行う。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。